

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	淀川区
学 校 名	木川南小学校
学校長名	池田 健一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・木川南小学校では、第6学年 21名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語と理科の平均正答率は全国平均正答率とほぼ同じであった。大阪市平均正答率と比べると国語で1ポイント、理科では2ポイント上回っている。算数は平均正答率は全国平均正答率と大阪市平均正答率を8ポイント上回る結果となった。

平均無解答率では国語で全国平均無解答率0.7ポイント、大阪市平均無解答1.2ポイント下回った。算数では全国平均無解答率2.1ポイント、大阪市平均無解答1.8ポイント下回った。理科では全国平均無解答率1.9ポイント、大阪市平均無解答2.1ポイント下回った。平均無解答率が下回ったことが、全国・大阪市の平均正答率を上回る結果に結び付いた。

質問紙調査からは、生活習慣がしっかり身についていることで学校生活を落ち着いて過ごし、学習できていることがわかる。今後も安心して学習できる環境を子どもたちに提供していくことが、学力向上につながると考えている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「情報の取り扱いに関する事項」「読むこと」では全国平均正答率と大阪市平均正答率を上回った。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」では全国平均正答率と大阪市平均正答率を下回った。資料から情報を得たり活用したり、文章の趣旨を読み取りすることはできる。その反面、条件に即して決められた文字数で文章をまとめることに課題が残る。

〔算数〕4領域中4領域のすべてにおいて全国平均正答率と大阪市平均正答率を上回った。その中でも「測定」の領域は大きく上回った。個々に細やかな指導を行ってきたことや定着プリントに取り組ませたことが成果に繋がったと考えられる。

〔理科〕「エネルギー、粒子、地球」の領域で全国平均正答率と大阪市平均正答率を上回った。「生命」の領域では、全国平均正答率と大阪市平均正答率を下回り、この領域での予想・実験・考察のどの段階においても定着が薄かったことが伺える。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の項目では、7割の児童が最も肯定的な回答をしている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目では9割以上の児童が肯定的に回答している。その反面、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目では、最も肯定的に回答している児童が3割で全国平均・大阪市平均より低くなっている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目でも最も肯定的に回答している児童が6割で全国平均・大阪市平均より低くなっている。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新しい考え方に気付いたりすることができていますか」の項目でも最も肯定的に回答している児童が3割で全国平均・大阪市平均より低くなっている。主体的・対話的な深い学びを念頭に教育活動を実施しているが児童一人ひとりの学びの充実を実現できていないことやキャリア教育の充実で課題が残る結果となっている。

今後の取組(アクションプラン)

一人ひとりの児童を尊重し、誰もが安心できる学級・学校づくりに努めてきた。一人ひとりが自分の良さに気づき、「学校って楽しい」「友だちと遊ぶのが好き」「学ぶことがおもしろい」そんな子どもたちの声が聞こえる学校運営を進めていく。今後は自分の考えを深めたり、広げたりという力を培っていききたい。実践的に思考ツールを活用しながら学習活動において、自分の意見を発表できるようにしていく。また、自分の考えを文章に表すことにも重点を置き、学習展開していくように各学年で創意工夫していく。一方で一人一台端末を学習中にどのように活用するかについても校内でのより一層の実践と検証を進めていく。自律的な生活規律、学習規律を創り出す集団の土壌を耕し、共に学び、共に伸びていく喜びを感じることでできる学級・学校づくりをさらに進めていく。